

電気自動車は米欧中韓との国家戦だ！

週刊エコノミスト

2022

10/18

毎日新聞出版
定価700円

EV 電池 池 世界戦

EVは再エネ利用の国家戦
出遅れた日本の挽回策

米国 17州が脱ガソリンへ

日本車に補助金なしも

欧州 電池工場40社が集中

中国 3000万台分の電池供給

韓国 タクシー4割がEV

トヨタ 水素利用の死角

エコノミスト・リポート

低い薬価に
海外勢がソッポ

本命は商用EV
伏兵は京大ベンチャー

弾圧されたトルストイ
島田雅彦インタビュー

戦争とロシア文学

いま読む





社会インフラである水道事業を中心に、75年の歴史を刻んできた荏原商事。同社の島田薰社長が、活動をサポートしているプロゴルファーの平井亜実選手を迎え、挑戦を続けることへの思いや日ごろから大切にしていることなどについて、経営者とアスリートという視点から語り合った。

PRESIDENT OF EBASHO



荏原商事 代表取締役社長

島田 薫 Kaoru Shimada

1992年東京国際大学卒業後、明電舎に入社し10年間営業職に従事。2002年荏原商事入社。2004年代表取締役社長就任。
<https://www.ebasho.co.jp/>

Community Contribution

- 社会貢献 -

荏原商事は、ライフラインを支える本業自体が社会貢献となっているが、島田社長はSDGsやESGへの取り組みなど、次のステップも考えているという。その一つが、サポートするアスリートやプロのスポーツチームの活躍を、植樹やワクチンの提供などにより支援するというもの。たとえばバーディーを取ると何人分のワクチンが提供され、子どもたちの命を救うことに貢献するといったアイデアで、その実現を目指している。

い社員でもお客様からお仕事をいただいているのは、普段から一生懸命通つて人間関係を築いているからで、そうしたことはこれからも大事にしたいと思っています。平井 それは私も実感していて、普段努力しないで急に成績が上がることは絶対ないと思っています。やはり、ビジネスもスポーツも、コツコツ努力することがいちばんではないでしょうか。

島田 そうですね。特に大きな仕事になると、それこそ何年もかけて受注できることがあります。そこでは、信頼を積み重ね、ご提案するということを継続して初めて仕事になることが多く、努力の積み重ねの大切さはまさに共通します。

— スポーツの持つ可能性についてはどうお考えでしょうか。

島田 それはもう無限大ですね。東日本大震災のあった年に、サッカーでなでしきヤパンが世界一になりましたが、本当に人々に勇気を与えてくれて、スポーツの持つ力の大きさを実感しました。それは多分、試合に勝つただけではなく、それだけの努力をしてきたことが伝わってくるからなのでしょう。そこにたどり着くまでの努力を子どもたちが感じ、今度はその子どもたちが世界に羽ばたいてくれ

Ebasho
荏原商事株式会社

無限の可能性をサポートし 誰もが自らの目標に挑戦できる社会へ

PROFESSIONAL GOLFER

プロゴルファー
平井 亜実 Ami Hirai

1996年石川県生まれ。10歳からゴルフを始める。福井工業大学附属福井高校卒業。2021年6月プロ転向。小松カントリークラブ所属。2022年7月「カストローレレディース」でプロ初優勝。
<https://www.ebasho.co.jp/sustainability/athlete/>

— 7月にカストローレレディースで優勝されました。

平井 素直にうれしかったです。ただ、ステップアップツアーでランキング1位を獲得するのが目標ですので、今はもう1勝したいという思いを強くしています。

島田 私もドキドキしながらテレビで競り合いを見ていました。今回、優勝したことも素晴らしいのですが、最終日をノーボギーで終えたことに大きな成長を感じました。私も自分がすごい自信につながっています。

平井 私自身もそれがすごい自信につながっています。

— 島田社長が平井選手をサポートするようになったきっかけは?

島田 当社の支社がある石川県でゴルフコンペがあつたとき、紹介されたのが最初の出会いです。それから数日後、別の方から応援してほしい人がいるといって紹介されたのも平井選手で、運動的なものを感じサポートさせていただくようになりました。

平井 私もご縁を感じました。プロテストをを目指すなか、サポートいただくことで練習に専念できたのは本当にありがとうございました。ですから、プロテストに合格したときに、島田社長へ「受かりました」と報告ができたことがとてもうれしかったです。

島田 当社では、平井選手をはじめ、スポーツを通じた次世代育成に取り組んでいますが、その根底には、自分たちに何ができるかといふのがあります。そうしたなかで、平井選手のように世界を目指しているアス

リートには、応援したい気持ちがいつも強くなります。

— 経営者とアスリートという違いはあってもお互いから学ぶこともあります

思いますが。

平井 島田社長はつねに新しいことに挑戦しているのが格好いいなと思います。

今年創業75周年で、これだけ大きな企業のトップでありながら、現状に満足することなく、つねに上を目指す姿勢がすごく伝わってきて、私もそんなふうにいつも挑戦を続けていけたらと思うています。

島田 そうした気持ちは私にも伝わって、ゴルフに對して真剣に打ち込む姿は非常に好感が持てますし、刺激になります。ゴルフが一つ一つ基礎を固めいかなければ上達しないように、ビジネスも地道な積み重ねがなければ受注にはつながりません。向上心を持って挑戦を続けるという点で相通じるものがあります。

— それぞれ日々から大切にしていることは何でしょう?

平井 先ほど挑戦するというお話をありましたが、試合中はどうしても予選落ちしないよう新しいことへの挑戦は怖いと感じることがあります。でも、そうした挑戦は次つながっていくものなので、練習してきた新しいスイングなども、怖がらず試していくところにかけています。

島田 その積み重ねが確実に力になっていくのでしょうね。私自身がビジネスにおいて大変にしているのは、人と人とのつながりで、当社がこれだけ長く続いているのも、いいお客様に支えられているからで、本当に恵まれていると思っています。当社の若

たらうれしい、応援していきたいです。

平井 同感です。私自身、プレーを見て元気が出たとか、頑張ろうと思つたと言つていただくととてもうれしいし、自分のエネルギーになります。私が宮里藍さんを見てプロになろうと思ったように、今度は自分がそんな立場になれるよう頑張つて、プレーで皆さんを元気づけられたらいいなと思います。

— 最後に、今後の目標やビジョンをお聞かせください。

島田 当社の今の大好きな目標は100年企業になることです。それに向け、これまでいただいてきたお客様の信頼を胸に、「やはり荏原商事に任せたら安心だ」と言われるよう努力していきたいと思います。これからも「水と空気を中心」に、皆さまのライフラインを支えている使命感を持って、アスリートに挑戦したい思いがありますので、レギュラーで優勝争いができるよう技術の向上に努め、できるだけ早く目標に挑戦したいです。